

みずほマーケット・トピック (2016年12月22日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照下さいませ。

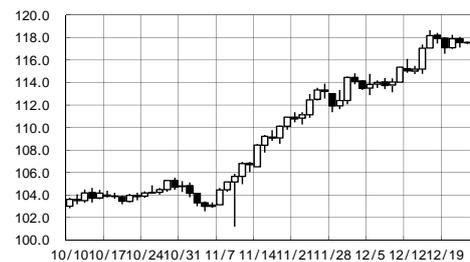
1. 為替相場の動向 (関連レポート: 「みずほ Customer Desk Report」, 「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は揉み合う展開。週初19日、117円台後半でオープンしたドル/円相場は、前週末に米株が下落した流れを引き継ぎ日経平均株価も軟化する中、117円台前半まで下落した。その後、米長期金利の低下や、トルコの首都アンカラでロシアのカルロフ大使が銃撃され死亡したとの報道に地政学リスクの高まりが警戒され円買いが強まると、ドル/円は一時週安値となる116.55円まで値を下げた。しかし、イエレンFRB議長の「平均時給上昇の予兆が見えている」などのタカ派な発言を受けてドル/円は117円台前半まで回復。翌20日には、日銀金融政策決定会合において、金融政策の現状維持が決定され、米金利や日経平均株価が上昇する中で、ドル/円は一時週高値となる118.24円まで上昇した。しかしクリスマス休暇も控え、ポジション調整の動きや原油価格の下落に伴い、ドル/円は117円台後半まで下落した。21日は、実需のドル買いなどからドル/円は118円台前半まで上昇する場面が見られるも、利益確定の売りや日経平均株価や欧州株価の軟調推移を背景に117円台前半まで下落。その後は米11月中古住宅販売の市場予想を上回る結果にドル/円は117円台後半まで上昇したが、米長期金利の低下を受けて上値重く推移した。本日にかけてもクリスマス休暇を控え、ドル/円は117円台半ばで小動きとなっている。
- 今週のユーロ相場は下に往って来いの展開。週初19日、1.04台半ばでオープンしたユーロ/ドルは、一時週高値となる1.0480をつけるも、イエレンFRB議長のタカ派な発言や米金利が反発する動きにドル買いが強まると、1.04割れまで下落した。20日にかけては、ドル高地合いの中、19日のベルリンでのクリスマスマーケットにトラックが突入する事件などを受け地政学リスクの高まりが意識されると、ユーロ/ドルは2003年1月以来の安値となる1.0352をつけた。21日には、地政学リスクの高まりを意識したユーロ売りが一巡すると、ユーロ/ドルは1.04台半ばまで上昇する場面も見られたが、ロンドン仲値にかけてのドル買い需要や伊大手銀行の年内の増資完了が失敗に終わる可能性が高まったとの報道に、1.04台前半に反落した。本日にかけては、ユーロの買い戻しも散見されているが、同銀の増資懸念が燻る中、1.04台前半で底堅く推移している。

今週のおもな金融市場動向 (出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週		
		12/16(Fri)	12/19(Mon)	12/20(Tue)	12/21(Wed)
ドル/円	東京9:00	118.26	117.81	117.03	117.81
	High	118.43	118.00	118.24	118.06
	Low	117.46	116.55	116.99	117.11
	NY 17:00	117.90	117.10	117.88	117.56
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0417	1.0446	1.0403	1.0391
	High	1.0474	1.0480	1.0418	1.0451
	Low	1.0400	1.0393	1.0352	1.0383
	NY 17:00	1.0455	1.0410	1.0388	1.0423
ユーロ/円	東京9:00	123.22	123.08	121.77	122.46
	High	123.63	123.19	122.80	122.84
	Low	122.85	121.71	121.74	122.08
	NY 17:00	123.29	121.87	122.37	122.55
日経平均株価		19,401.15	19,391.60	19,494.53	19,444.49
TOPIX		1,550.67	1,549.06	1,552.36	1,544.94
NYダウ工業株30種平均		19,843.41	19,883.06	19,974.62	19,941.96
NASDAQ		5,437.16	5,457.44	5,483.94	5,471.43
日本10年債		0.08%	0.09%	0.07%	0.06%
米国10年債		2.59%	2.54%	2.56%	2.53%
原油価格 (WTI)		51.90	52.12	53.30	52.49
金 (NY)		1,137.40	1,142.70	1,133.60	1,133.20

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 本邦では、27日(火)に11月全国消費者物価指数(CPI)が発表される。先行指標となる11月東京都区部CPIは前年比+0.5%と10月(同+0.1%)から加速しており、11月全国CPIの市場予想は同+0.5%と10月(同+0.1%)から拡大すると見られている。但し、11月東京都区部CPIの加速は生鮮食品価格の上昇が大きく影響しており、生鮮食品を除いた総合指数(コアCPI)では同0.4%と9か月連続で前年比マイナスとなっている。そのため、11月全国コアCPIも同0.4%になると予想されており、インフレ圧力が高まっていると言いがたい状況だ。また、28日(水)には11月鉱工業生産指数(速報値)が発表される。11月製造工業予測指数では前月比+4.5%と、はん用・生産用・業務用機械や情報通信機械、電子部品・デバイスなどで増産が見込まれていたため、11月鉱工業生産は同+1.0%と10月(同+0.0%)からの加速が予想されている。なお、12月製造工業予測指数は同0.6%となっており、年末にかけて生産が減速する可能性が高い。このほか、28日(水)に11月小売売上高が発表され、金融政策関連では、26日(月)に日銀金融政策決定会合の議事要旨(10月31日～11月1日開催分)の公表、及び黒田日銀総裁の講演、29日(木)には日銀金融政策決定会合における主な意見(12月19～20日開催分)が予定されている。
- 米国では、27日(火)に12月消費者信頼感指数の発表が予定されており、市場では107.0と11月(107.1)から小幅に低下するも、2007年7月以来の高水準が続くことが見込まれている。10日に発表された12月ミシガン大学消費者信頼感指数は98.0と2015年1月以来の高水準となったほか、全米小売業協会(NRF)は、11月～12月の小売売上高(自動車、ガソリン、外食を除く)は6558億ドル(前年比+3.6%)になるとの予想値を発表した。米大統領選後の金利上昇による悪影響が懸念されるが、米国の個人消費は底堅さを保っている模様だ。
- 欧州では、27日(火)～30日(金)に独11月小売売上高、28日(水)に伊12月消費者信頼感指数、同製造業信頼感指数が発表される。

	本 邦	海 外
12月23日(金)		・米11月新築住宅販売 ・米12月ミシガン大学消費者マインド(確報)
26日(月)	・金融政策決定会合議事要旨 (10月31～11月1日開催分) ・11月企業向けサービス価格 ・10月景気動向指数(確報)	
27日(火)	・11月労働力調査 ・11月家計調査 ・12月東京都区部・11月全国消費者物価 ・11月住宅着工	・米10月S&P/コアロジックケース・シラー住宅価格 ・米12月消費者信頼感指数 ・独11月小売売上高(～30日に発表予定)
28日(水)	・11月鉱工業生産(速報) ・11月商業販売統計	・伊12月消費者信頼感指数
29日(木)	・金融政策決定会合による主な意見 (12月19～20日開催分)	・米11月卸売在庫(速報)
30日(金)		・米12月シカゴ購買部協会景気指数

【当面の主要行事日程(2017年1月～)】

- 世界経済フォーラム年次総会(1月17～20日、ダボス)
- ECB理事会(1月19日、3月9日、4月27日)
- 日銀金融政策決定会合(1月30～31日、3月15～16日、4月26～27日)
- 米FOMC(1月31～2月1日、3月14～15日、5月2～3日)

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌 大輔 (TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、确实性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2016年12月)

月	火	水	木	金	週末
			1 日本 法人企業統計(7~9月期) 日本 自動車販売台数(11月) 米国 建設支出(10月) 米国 ISM製造業景気指数(11月) ユーロ圏 失業率(10月)	2 日本 マネタリーベース(11月) 米国 雇用統計(11月)	4 イタリア 憲法改正の是非を問う国民投票
5 米国 労働市場情勢指数(11月) 米国 ISM非製造業景気指数(11月) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル)	6 日本 毎月勤労統計(10月) 米国 貿易収支(10月) 米国 製造業新規受注(10月) 米国 耐久財受注(確報、10月) 米国 労働生産性(確報、7~9月期) ユーロ圏 EU・経済財務相理事会(ブリュッセル) ユーロ圏 GDP(確報、7~9月期) ドイツ 製造業受注(10月)	7 日本 景気動向指数(速報、10月) 米国 消費者信用残高(10月) ドイツ 鉱工業生産(10月)	8 日本 国際収支(10月) 日本 GDP(確報、7~9月期) 日本 貸出・預金動向(11月) 日本 景気ウォッチャー調査(11月) 日本 企業倒産件数(11月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)	9 日本 法人企業景気予測調査(10~12月期) 日本 マネーストック(11月) 米国 卸売売上高(10月) 米国 卸売在庫(確報、10月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、12月) ドイツ 貿易収支(10月) ドイツ 経常収支(10月)	
12 日本 機械受注(10月) 日本 国内企業物価(11月) 日本 第三次産業活動指数(10月) 米国 財政収支(11月)	13 米国 FOMC(~14日) ドイツ ZEW景況調査(12月)	14 日本 日銀短観(11月調査) 日本 鉱工業生産(確報、10月) 米国 小売売上高(11月) 米国 生産者物価(11月) 米国 鉱工業生産(速報、11月) 米国 企業在庫(10月) ユーロ圏 鉱工業生産(10月)	15 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(12月) 米国 消費者物価(11月) 米国 経常収支(7~9月期) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(12月) 米国 MITICレポート(対内対外証券投資、10月) ユーロ圏 EU首脳会議(~16日、ブリュッセル) ユーロ圏 製造業PMI、サービス業PMI(速報、12月)	16 米国 住宅着工(11月) 米国 中古住宅販売(11月) ユーロ圏 貿易収支(10月) ユーロ圏 消費者物価(確報、11月)	
19 日本 日銀金融政策決定会合(~20日) 日本 貿易収支(11月) ドイツ IFO企業景況指数(12月)	20 ユーロ圏 経常収支(10月)	21 米国 中古住宅販売(11月)	22 米国 GDP(3次速報、7~9月期) 米国 耐久財受注(速報、11月) 米国 個人所得・消費(11月) 米国 PCEコアデフレーター(11月) 米国 景気先行指数(11月)	23 日本 天皇誕生日 米国 新築住宅販売(11月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、12月)	
26 日本 日銀金融政策決定会合議事要旨(10月31~11月1日開催分) 日本 企業向けサービス価格(11月) 日本 景気動向指数(確報、10月)	27 日本 労働力調査(11月) 日本 家計調査(11月) 日本 全国消費者物価(11月) 日本 東京都区部消費者物価(12月) 日本 住宅着工(11月) 米国 S&P/コアロジックケース・シラー住宅価格(10月) 米国 消費者信頼感指数(12月)	28 日本 鉱工業生産(速報、11月) 日本 商業販売統計(11月)	29 日本 金融政策決定会合による主な意見(12月19~20日開催分) 米国 卸売在庫(速報、11月)	30 米国 シカゴ購買部協会景気指数(12月)	

[注]*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
[資料]ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2017年1月)

月	火	水	木	金	週末
<p>2</p> <p>日本 振替休日</p>	<p>3</p> <p>米国 建設支出(11月) 米国 ISM製造業景気指数(12月)</p>	<p>4</p> <p>米国 FOMC議事要旨(12月13~14日開催分) ユーロ圏 消費者物価(速報、12月)</p>	<p>5</p> <p>日本 マネタリーベース(12月) 日本 自動車販売台数(12月) 米国 ADP雇用統計(12月) 米国 ISM非製造業景気指数(12月)</p>	<p>6</p> <p>日本 毎月勤労統計(11月) 米国 雇用統計(12月) 米国 製造業新規受注(11月) 米国 耐久財受注(速報、11月) 米国 貿易収支(11月) ドイツ 製造業受注(11月)</p>	
<p>9</p> <p>日本 成人の日 米国 消費者信用残高(11月) 米国 労働市場情勢指数(12月)</p> <p>ユーロ圏 失業率(11月) ドイツ 鉱工業生産(11月) ドイツ 貿易収支(11月)</p>	<p>10</p> <p>米国 卸売在庫(速報、11月) 米国 卸売売上高(11月)</p>	<p>11</p> <p>日本 景気動向指数(速報、11月)</p>	<p>12</p> <p>日本 貸出・預金動向(12月) 日本 景気ウォッチャー調査(12月) 日本 国際収支(11月) ユーロ圏 鉱工業生産(11月)</p>	<p>13</p> <p>日本 マネーストック(12月) 日本 企業倒産件数(12月) 米国 生産者物価(12月) 米国 小売売上高(12月) 米国 企業在庫(11月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、1月) 米国 財政収支(12月)</p>	
<p>16</p> <p>日本 機械受注(11月) 日本 国内企業物価(12月) 日本 第三次産業活動指数(11月) ユーロ圏 貿易収支(11月)</p>	<p>17</p> <p>日本 鉱工業生産(速報、11月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(1月) ドイツ ZEW景況指数(1月) 世界経済フォーラム(~20日、ダボス)</p>	<p>18</p> <p>米国 消費者物価(12月) 米国 鉱工業生産(12月) 米国 米TICレポート(対内外対外証券投資、11月) ユーロ圏 消費者物価(速報、12月)</p>	<p>19</p> <p>米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(1月) 米国 住宅着工(12月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト) ユーロ圏 経常収支(11月)</p>	<p>20</p> <p>米国 新大統領就任式</p>	
<p>23</p> <p>日本 景気動向指数(速報、11月)</p>	<p>24</p> <p>米国 中古住宅販売(12月) ユーロ圏 製造業PMI、サービス業PMI(速報、12月)</p>	<p>25</p> <p>日本 貿易収支(12月) ドイツ IFO企業景況指数(1月)</p>	<p>26</p> <p>日本 企業向けサービス価格(12月) 米国 新築住宅販売(12月) 米国 卸売在庫(速報、12月) 米国 景気先行指数(12月)</p>	<p>27</p> <p>日本 全国消費者物価(12月) 日本 東京都都区消費者物価(1月) 米国 GDP(1次速報、10~12月期) 米国 耐久財受注(速報、12月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、1月)</p>	
<p>30</p> <p>日本 日銀金融政策決定会合(~31日) 日本 商業販売統計(12月) 米国 個人所得・消費(12月) 米国 PCEコアデフレーター(12月)</p>	<p>31</p> <p>日本 金融政策決定会合・展望(基本的見解) 日本 労働力調査(12月) 日本 家計調査(12月) 日本 鉱工業生産(速報、12月) 日本 新設住宅着工(12月) 米国 FOMC(~2月1日) 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格(11月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(1月) 米国 雇用コスト(10~12月期) 米国 消費者信頼感指数(1月) ユーロ圏 GDP(速報、10~12月期) ユーロ圏 消費者物価(速報、1月)</p>				

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2016年12月19日	メインシナリオのリスク点検 - 「守りの姿勢」継続を -
2016年12月16日	週末版(メキシコペソはドル高相場を阻むか - 避けて通れない政治的通貨 -)
2016年12月15日	FOMC(12月13 - 14日開催分)を終えて
2016年12月13日	米金利高・ドル高の影響 - 「熟する前に冷やす」怖さ -
2016年12月12日	円相場における実需と投機の現状について
2016年12月9日	週末版(ECB理事会を終えて - 2016年は「QEの終わり」を告げる年に -)
2016年12月7日	日米金利差から見たドル/円相場の水準感などについて
2016年12月6日	イタリア国民投票レビューとECB理事会プレビュー
2016年12月5日	トランプノミクスのリスクとなる米国の完全雇用状態
2016年12月2日	週末版(トランプノミクスを左右する米製造業マインド - 通貨政策のパロメーターに -)
2016年12月1日	イタリア国民投票プレビュー
2016年11月28日	ユーロ相場の展望 - 来年底打ちも政治リスクは重荷 -
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年10月分)
2016年11月25日	週末版(メインシナリオに対するリスクの整理 - 円安リスク。「現実味」は帯びたが「現実化」はまだ先 -)
2016年11月24日	日米金融政策比較と為替への含意 - 格差は拡大の一途だが -
2016年11月22日	真空地帯に入るドル/円相場 - 暫定見直し -
2016年11月21日	チキンレースと化するドル高相場 - レーガノミクスとの比較 -
2016年11月18日	週末版
2016年11月17日	イタリア国民投票に関するQ&A
2016年11月16日	円の基礎的需給環境の現状と展望
2016年11月15日	トランプノミクスを巡る2つのシナリオ
2016年11月14日	トランプノミクス相場に関するQ&A
2016年11月11日	週末版(トランプ次期大統領のポリシーミックス - 随所に見られる矛盾をどう捉えるか -)
2016年11月10日	トランプ大統領誕生と為替相場見直しへの影響
2016年11月8日	実質ドル/円相場の現状 - 「超異常」から「異常」そして「正常」へ -
2016年11月7日	米10月雇用統計を受けて - 「最後の灯火」の可能性も念頭に -
2016年11月4日	週末版(FOMCを終えて - 焦点は3回目、4回目の利上げに -)
2016年11月2日	日銀金融政策決定会合を終えて - 無味無臭の政策運営へ -
2016年10月28日	週末版
2016年10月27日	ドル高相場の調整が進まない背景 - 実効相場の観点から -
2016年10月26日	円高シナリオにまつわるリスクの整理
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年9月分)
2016年10月25日	日銀金融政策決定会合プレビュー - もう表舞台に立ちたくない -
2016年10月24日	ECB理事会を終えて - ECB版総括的検証の行方 -
2016年10月21日	週末版
2016年10月20日	最近の対内・対外証券投資動向と為替について
2016年10月19日	英ポンド急落の読み方 - 通貨安戦争の勝ち組 -
2016年10月18日	英ポンド急落の読み方 - 通貨安戦争の勝ち組 -
2016年10月17日	米為替政策報告書を受けて - ドル高忌避変わらず -
2016年10月14日	週末版
2016年10月7日	週末版
2016年10月5日	ECBのテーバリング観測 - 予想すべきは真逆の方向 -
2016年10月4日	世界にとつてのテールリスクとなる「欧州の潔癖主義」
2016年10月3日	外貨準備構成通貨の現状(2016年6月末時点)
2016年9月30日	週末版
2016年9月27日	ユーロ圏の与信、物価、為替に関する状況整理
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年8月分)
2016年9月26日	ハードルが上がった日銀の追加緩和
2016年9月23日	週末版(日米金融政策決定会合を終えて - 確度が強まる円高見直し -)
2016年9月20日	米大統領選挙と為替相場に対する考え方について
2016年9月16日	週末版(「日銀相場」の活かし方 - 断ち切られた株と為替のリンク -)
2016年9月15日	G4通貨の調整状況 - 懸念されるドル安不足 -
2016年9月14日	日銀会合プレビュー - 「量との決別、金利への転進」 -
2016年9月13日	ブレインード講演を終えて - ハト派の矜持 -
2016年9月12日	米利上げに怯える株式市場 - 「ドル高の罠」再び -
2016年9月9日	週末版(ECB理事会を終えて - 注目はパラメーター修正の「次の論点」へ -)
2016年9月8日	円相場の基礎的需給環境 - 2016年7月 -
2016年9月6日	ECB理事会プレビュー - 「お茶を濁す」方法 -
2016年9月5日	足許の円安の本質 - 「4か月前の円安」と同質 -
2016年9月2日	週末版
2016年8月30日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年7月分)
2016年8月29日	イエレン議長講演を受けて - 「短期は強気、長期は弱気」 -
2016年8月26日	週末版(ドル高相場の読み方、考え方 - 何を、どう見ておくべきか -)
2016年8月24日	最近のユーロ相場の状況について
2016年8月23日	黒田日銀総裁インタビューを受けて
2016年8月22日	ECB理事会議事要旨(7月20 - 21日開催分)
2016年8月19日	週末版(円安・円高の正しい評価とは - 交易条件、実質所得、ISバランスなどの観点から -)
2016年8月18日	FOMC議事要旨(7月26 - 27日開催分) - 自信喪失? -
2016年8月17日	「円買い」ではなく「ドル売り」に主導された円高
2016年8月16日	リスクシナリオとしての世界経済の底打ち機運
2016年8月15日	本邦4 - 6月期GDP - 実質所得環境は改善中 -
2016年8月12日	週末版(人民元ショックから1年 - 「国際金融のトリレンマ」に照らしたおさらい)
2016年8月10日	円相場の基礎的需給環境 - 2016年上半年 -
2016年8月5日	週末版(総括的検証で問われるべきは「戦術」ではなく「戦略」の妥当性 - 「失敗の本質」は何か -)
2016年8月4日	イタリア問題Q&A - Italeaveまで至るか否か -
2016年8月3日	今一度確認しておきたい米利上げとドル高の意味
2016年8月2日	欧州銀行に対するストレステスト - 残るイタリアへの不安 -
2016年8月1日	日銀金融政策決定会合を終えて(7月28 - 29日開催分)
2016年7月29日	週末版
2016年7月28日	FOMCを終えて(7月26 - 27日開催分)
2016年7月26日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年6月分)
2016年7月22日	週末版(ECB理事会を終えて - 「嵐」の前の静けさ -)
2016年7月21日	日銀金融政策決定会合プレビュー(7月28 - 29日開催分)
2016年7月20日	明らかに開始したBrexitの下押し圧力について
2016年7月19日	「空気を読まない」EU政策当局への危機感
2016年7月15日	週末版(ECB理事会プレビュー - 現状維持も「次の一手」は近い -)
2016年7月14日	危う過ぎるヘリマネ議論 - 円の信認を「叩き壊す」政策 -
2016年7月13日	ドル/円相場、急騰の解釈 - 「木」ではなく「森」を見るべき -
2016年7月11日	米6月雇用統計 - いよいよ諦観が漂い始めた米利上げ -
2016年7月8日	週末版(円相場の基礎的需給環境について - 頭打ちの経常黒字 -)
2016年7月7日	FOMC議事要旨 - 崩れ始めるファイティングポーズ -